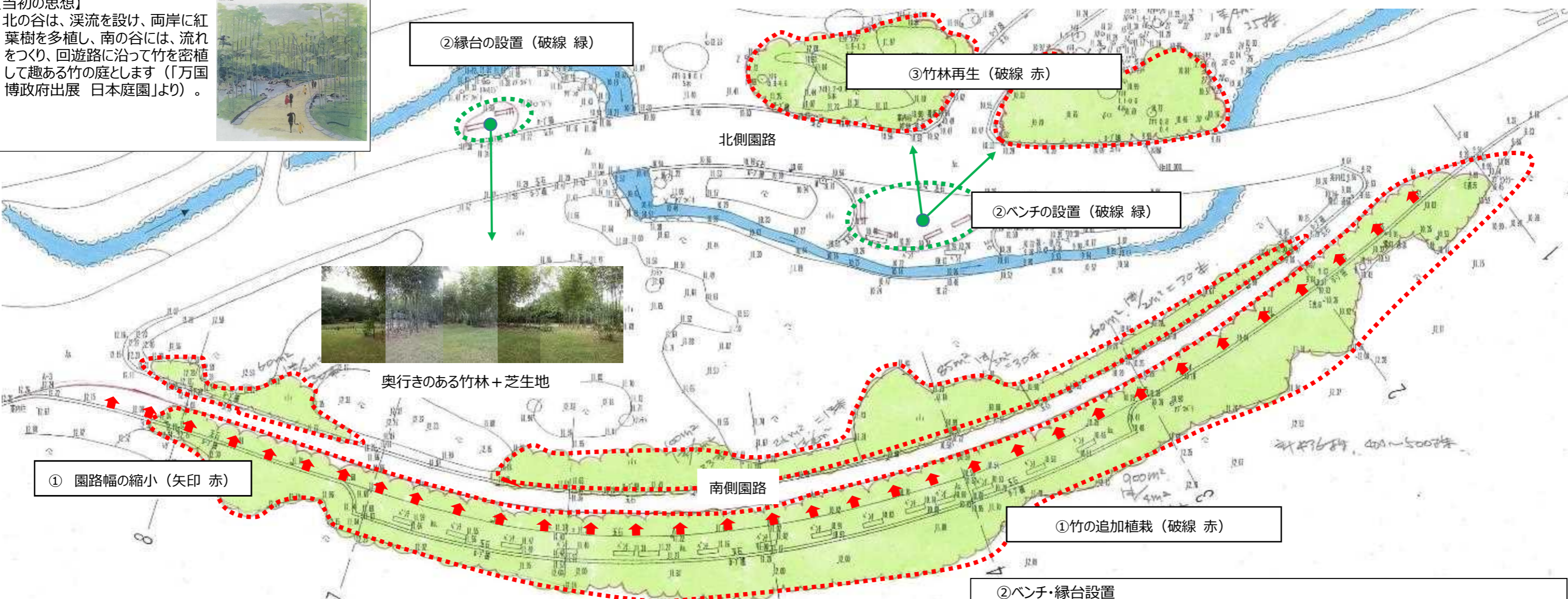


日本庭園の魅力向上について（竹林の小径の改修）

竹林をより身近に楽しめる施設改修

【当初の思想】

・北の谷は、溪流を設け、両岸に紅葉樹を多植し、南の谷には、流れをつくり、回遊路に沿って竹を密植して趣ある竹の庭とします（「万国博政府出展 日本庭園」より）。



①南側園路の改修

- ・園路幅が広く、竹に囲まれる感は薄い
- ・園路沿いは竹のボリューム感が不足



南側園路から東側



南側園路から西側

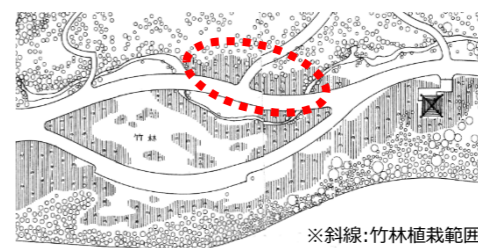
- ・園路幅の縮小（4m⇒1.8m）
- ・園路沿いに竹（千里産）の追加植栽



改修イメージ



- ②ベンチ・縁台設置
・竹林をより身近に感じられるように、視点場にベンチ・縁台を設置する。
- ③竹林再生
・当初設計から竹林が消失している箇所には、竹を植栽する。



※斜線：竹林植栽範囲

基本設計図面



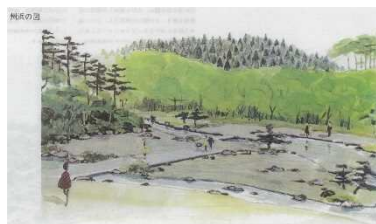
植栽当初写真

日本庭園の魅力向上について（松の洲浜の改修）

松の洲浜を様々な視点場から楽しめる施設改修

【当初の思想】

・泉とともに水源とし、溪流と合わせ水の諸態を創り、両谷の合流点では、広い洲浜をつくって、日本独特の石庭の起源を思わせる景観を作り出します（「万国博政府 出展 日本庭園より」）。



施工当初写真



① 藤棚

- ・10周年記念事業で設置
- ・藤棚があることで、西側園路、東側園路からは洲浜が見えにくい
- ・六角形の形状と角材の梁・垂木は、洲浜にそぐわない（中世に藤棚は存在しない）

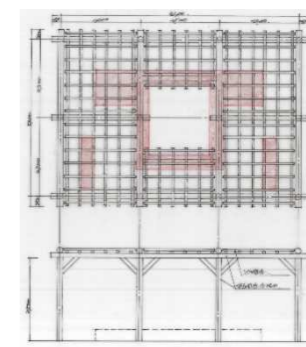


a 西側園路からの景観



b 東側園路からの景観

- 藤棚（西側）：酷暑対策や利用実績を考慮し、最小規模（長方形、5.4m×8.1m）で設置
- 藤棚（東側）：景観阻害要因である藤棚の撤去



藤棚



イメージ（柱・梁は丸太材、垂木は竹材）

② 南北ルートの変形

① 藤棚（東側）の撤去

② バリアフリー化の検討

- ・景観を損ねない範囲で、改修可能なものについてはバリアフリー化すべき
- ・砂利舗装部の分断が感じられないデザインと素材選定が必要

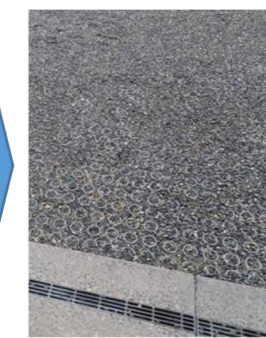
○南北ルート（南側園路～藤棚（西側）～木橋～北側園路）のバリアフリー化



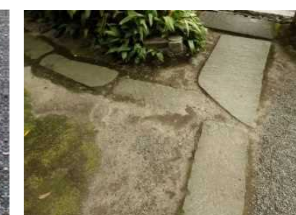
c 木橋・土舗装部



c 砂利舗装部



砂利+円柱形パイプ



三和土風仕上げ

木橋脱輪止め

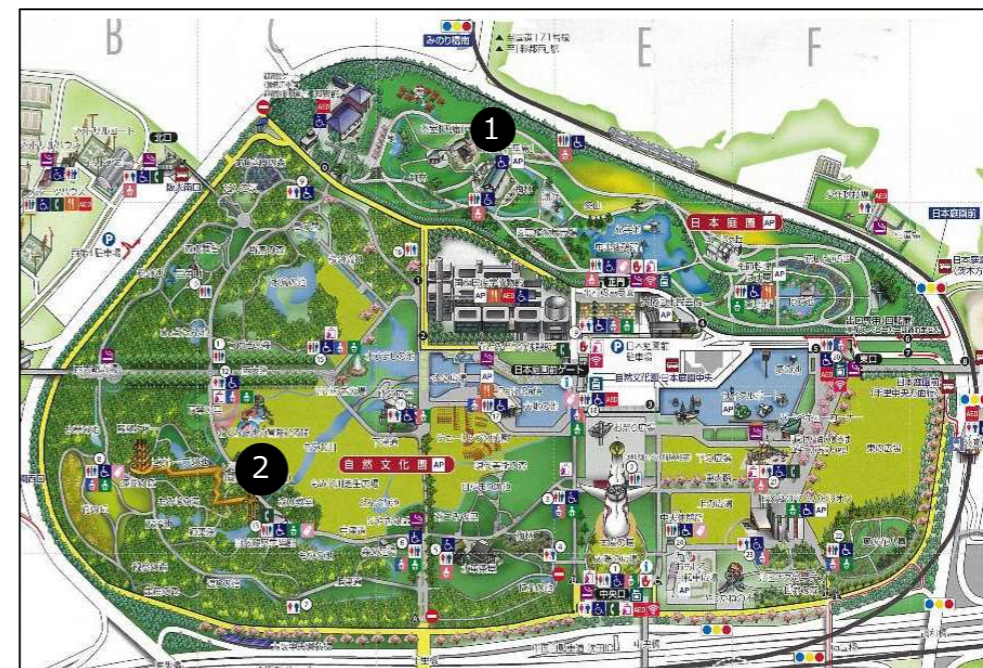
川床の試行について

〇概要

- ・日本庭園の魅力向上の取組の 1 つとして、木漏れ日の滝に川床を設置する計画（「日本庭園改修基本計画」に記載）
- ・大工を養成する大阪工業技術専門学校との連携を実施
- ・川床をテーマに卒業制作を 2 グループ（1 グループ 3～4 名）に分かれて取り組む

〇スケジュール

	2019年						2020年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大阪工業技術専門学校	現地調査	図面・模型作成		プレゼン	材料確保 材料加工・仮組み		製作・組み立て	卒業制作展	卒業
万博記念公園								試行設置	

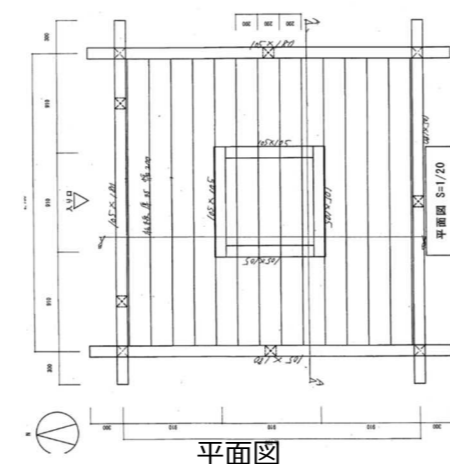


設置位置図

①日本庭園 木漏れ日の滝 流れ



現況



模型

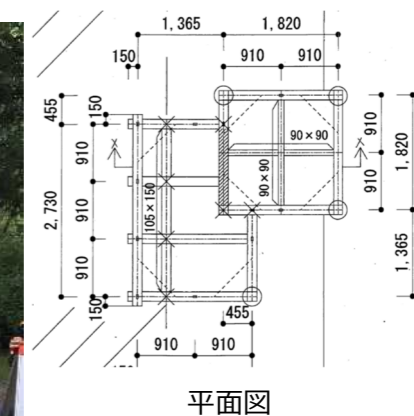


- ・源氏物語絵巻をモチーフ
- ・長時間利用を想定

②もみじ川治い



現況



模型



- ・デッキのような使い方
- ・短時間利用を想定